

# 令和6年度 校内研究概要

## 1 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を追究する児童の育成  
～児童が自分たちの力で学びをつくり上げていく授業をめざして～

## 2 主題設定の理由

### (1) 国府津小学校グランドデザインから

本校では、「向上心をもち、美しい心で、強い心と体の育成」を目標として掲げている。本年度は中でも、「学び合い」「認め合い」「体力向上」を重点目標としている。校内研究と関連の深い「学び合い」では、「課題を見だし、他者（友達・地域の方々）と連携・協働して主体的に課題解決に取り組もうとする態度」「『聴いて考えてつなげる』対話を通して考えを深める」が重点目標として設定されている。

### (2) 児童の実態から

本校の児童の多くは、自分たちで学校のことを考えていきたい、自分たちの力で決めていきたいという気持ちをもっている。また、素直で学習や行事にも楽しんで取り組むことができている。代表委員会やクラス会議などの実践を経て、児童が主体的に行事や学習を進めていく風土が生まれつつあるように思う。しかし、教師主導型の授業や活動もまだ少ない。

また、学級や学年としての仲間意識が希薄だったり、児童同士で問題解決を上手く行えなかったりすることもある。これは、新型コロナウイルスの流行で、学習活動や児童同士の関わりが一時的に制限されたということが影響していると考えられる。また、コロナ禍以前よりも、児童同士の関わりや子どもだけで何かを成し遂げるといった経験が減ってしまったことも原因の1つだろう。

今以上に主体的に活動する児童の育成や、日々の教育活動の中でよりよい学習集団を形成していくためには、学校全体でこれらの課題に取り組んでいく必要がある。

### (3) 昨年度までの研究から

昨年度は『『生きる力』を支える『確かな学力』の育成～学び合いを通して思考を深める児童を目指して～』を主題とし、児童の「おや?」「なぜ?」「やってみたい」や「わからない」から始まる学習の充実を図り、教材研究と学級経営の両輪によって「生きる力」を支える「確かな学力」の育成に取り組んだ。教師や児童が学び合いをする意識をもち、楽しく取り組むことができた。その一方で活動ばかりに重点を置いてしまったこともあり、学び得るものが少ないという面があった。本年度は、児童の学びに重点をおき、児童が自分たちの力で学びをつくり上げていく授業づくりをめざしたい。

新学習指導要領では、これからの予測が困難な時代に対応するために、教育課程を通して育成を目指す資質・能力を「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」の3つの柱に整理されている。

以上の(1)～(3)の3点より、教師主導型の授業から児童が自ら課題解決を行っていく児童主体の授業へ転換をすることが、これらの資質・能力の育成に繋がると考え、本主題・副題を設定した。

## 3 主題に迫る手立て

### (1) 児童の生活経験や既有知識を生かした児童中心の授業づくり

児童が主体的に学習に取り組むためには、学習の内容を自分事としてとらえさせることが不可欠である。そのために、児童の生活経験や既有知識（ここで扱う既有知識は、既習事項を包括するものであり、授業で学んだことだけに限定しない。）を生かした課題やしかけ作りをしたり、児童の思考の流れを大切にしたりした単元構想を行うようにしていく。

本研究では、教師が児童に教えるのではなく、あくまで児童が自ら考え、学んでいく授業を目指す。児童が自ら既知知識を用いて試行錯誤し、目標を達成することが、学ぶ楽しさにつながっていくと考える。学習における達成感や成就感が、自分たちの力で学びをつくり上げていく児童の育成につながると考えられる。また、それらの活動が学びのない活動で終わらないように、友達とのやり取りの中で児童が思考を深めたり広げたりすることができるようにしていきたい。それらの学びを児童自身が振り返る場を確保し、児童の達成度を可視化するようにしていく。

**(2) 「話す・きくステップ表」を中心にした、児童が自ら学ぶ環境づくり**

児童が「主体的・対話的で深い学び」を追求していくためには、緊張や不安を抱くことなく、リラックスして学びに向かうことができる土壌が必要である。今年度は、以前の研究で作成した「話す・聞くステップ表」を全学級担任・専科教員に配付する。話す・聞くのめあてを児童の実態に合わせて各々で設定し、どの子も学級で安心して話し合うことができるようにしていきたい。

また、「話す・聞くステップ表」以外にも学習に関係する道具や本を簡単に手に取れるようにしておいたり、既習事項や学習に生かすことができる情報の掲示をしたりするなど、教室等の環境づくりにも配慮していく。

**(3) 目指すべき授業の指標を「主体的な学びのものさし」で示す**

児童が自分たちの力で学びを作り上げていくために、授業者が意識すべき指標を以下の「主体的な学びのものさし」にまとめた。授業をするにあたり、授業者及び児童は現在どの辺りにいるのか、単元を通してそれぞれどこをめざしていきたいのかを明確にし、学習の中で意識していきたい。

「主体的な学びのものさし」											
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	0～2		3～5			6～8			9～10		
課題	ほぼ教師が決定している		選択肢から児童に選ばせる			児童が選択肢を作り、選ぶ			児童が自分で決定する		
学び方	教師が学び方を決定する		指示に対して児童が、何をしているのか意識している			単元の一部で児童が学び方を決定する			単元で児童がどのように学ぶか決定する		
学習形態	教師が誰と学ぶかを定める		教師が範囲を定め、誰と学ぶかを定める			過程の一部で、誰と学ぶか児童が決める			児童がすべての過程で誰と学ぶか決める		

※【課題】・問いの作り方

【学び方】 ・比較（比べる）…共通点と相違点 ・五感を使って ・関連させる

・多面的・多角的な見方・考え方等…情報収集の仕方、整理・分析の仕方、まとめ・表現の仕方

【学習形態】・個の学び方、誰かと一緒に学ぶための学び方

## 4 研究の方法

### (1) 授業提案について

①全員が、年間を通して研究授業を1回行う。

・全体会の提案は、低・中・高学年・LRブロックで各1名行う。(原則、年次研対象者は除く)

・各ブロック提案は、各ブロックで参観・協議を行う。(他ブロックからの参加も可)

・当日は、参観者用に抽出児(本単元の中で、これまでどのように学んできて、この時間に予想される学びの姿)を記入した「座席表」を用意し、協議後に回収する。

②参観のしかた

・運営担当のブロック内で、カメラ記録及び授業者や児童の発言の記録を行う。(推進委員以外)

・座席表に児童の様子を記入し、協議の場に持ち寄る。

## (2) 研究協議の進め方

①研究協議は Jamboard で行う。グループの構成メンバーは研究副主任が作成する。

②研究協議の流れ

○グループ協議（司会は研究推進委員、発表はそれ以外の人で決める）

- ・Jamboard 内の黄色の付箋に児童の学びの姿や育ち（友達と学ぶ中で主体的に学び、自らの考えを深めたり、広げたりすることができているか、）を記入する。
- ・付箋を仲間分けしながら Jamboard 内のホワイトボードに貼り、意見交換をする。
- ・児童の学びの姿をよりよくするためには、どのような具体策が考えられるかピンクの付箋に書く。

○グループ発表し、全体で共有する。

